

震災復興を御来光に祈る 津波避難タワーで元日訓練

住民有志の団体「新浜オダツモッコ倶楽部(くらぶ)」が初めて主催した。訓練は午前6時、震度7の地震に伴い津波警報が発表されたとの想定。倶楽部主宰の村主英幸さん(58)がメガホンで住民らに避難を呼び掛けて回った。

住民や震災後に移転した元住民ら約100人が高さ10メートルの屋上に集まった。午前6時55分ごろ、地平線から太陽が顔を出すと、震災で亡くなった人たちへの思いを込めてそれぞれが手を合わせた。

震災後に宮城野区の上岡田地区に移転した無職菊地充夫さん(68)は「またみんなで集まれてうれしい。ふるさとが少しずつ活気ある町に戻ることを願っている」と話した。倶楽部によると、約150世帯が暮らしていた新浜地区は津波で約60人が犠牲になった。現在は約70世帯が住んでいるという。



▲津波避難タワーの屋上で初日の出を眺める住民ら=1日午前7時ごろ、仙台市宮城野区岡田

東日本大震災から7度目の新年を迎えた1日、津波被害を受けた仙台市宮城野区の新浜地区で、住民らが地区の津波避難タワーを使った避難訓練を実施し、屋上で初日の出を拝んだ。

we support ↓

RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう!大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
かめばん

しんぶん

JR常磐線 6年超不通の富岡-竜田が再開

不定期掲載

なやみな復興のうた

福島県楢葉町の竜田駅。
富岡方面は避難区域なので列車はこまでも車内放送で「富岡方面はお乗り換えです」って言って、いつになるかわからないけどつながらざるをえなかった。
(2017.8.30 on Twitter)

今日が最後の終着駅



今日が最後の終着駅
明日からは途中駅だよ
(2017.10.20 on Twitter)



たつた

▲すけさきた96号で紹介したときにははまだ「終着駅」だった竜田駅ですが、その後2ヶ月たたないうちに「富岡方面はお乗り換え」が実現しました。おめでとうございます!



JR常磐線の富岡駅-竜田駅間の運行が再開され、富岡駅に到着した電車を出現する富岡町の宮本橋一町長ら=福島県富岡町で2017年10月21日午前9時59分、西本勝博撮影

残る常磐線の不通区間は第1原発が立地する双葉、大熊両町を通る富岡-浪江の20・8キロ。

竜田駅発の始発列車には約30人が乗り、車窓から外の風景にカメラを向ける姿が見られた。避難先の同県いわき市から昨年7月、楢葉町に帰還した草野厚子さんは「ここまで復旧するのは本当に大変だったと思う。めでたいね」と笑顔。「トンネルも昔のまま」と感慨深そうにつぶやいた。

東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の影響で6年7カ月間、不通となっていたJR常磐線富岡(福島県富岡町)、竜田(同県楢葉町)の6・9キロの運行が21日、再開した。普通列車が1日11往復する。

(2017.10.21 毎日新聞、共同)

JANUARY
11
2018